

論文投稿規定

1. 本誌に投稿する者は、共著者も含め原則として日本子宮鏡研究会の会員に限る。ただし、産婦人科医以外（他科）ならびに初期研修医を共著者として加える場合この限りではない。
2. 論文の種類は「総説」、「原著」、「症例報告」、「手術手技」の4種類とし未発表のものに限る。日本子宮鏡研究会学術講演会発表論文は、本文の終わりに“第〇〇回日本子宮鏡研究会学術講演会で発表した”と論文末に記載する。
著者人数は、「総説」・「原著」は10名以内、「症例報告」・「手術手技」は8名以内とする。
3. 二重投稿および同時投稿は禁ずる。
4. 投稿は電子投稿によるが、予め提供されている研究会誌フォーマット（本研究会ホームページ <http://hysteroscopy.kenkyukai.jp/special/?id=27171> よりダウンロード可能）に則り論文内容を記載の上、研究会事務局に投稿すること。
5. 学術用語は本研究会および日本医学会の所定に従う。英語のつづりは米国式とする（例：center, estrogen, gynecology）。
6. 異体字は編集部にて正字に修正することがある。また、体裁などにおいては本誌の統一性を保つため、あらかじめ編集部の方で修正することがある。
7. 原則として下記の項目を記載する。
表題、所属、著者名（以上英文併記）、Key words（5語以内）、概要（400字以内）、投稿責任者を規定の形式にて入力する。
投稿責任者は原則として公益社団法人日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医に限る。
概要には総括または結論を必ず含ませる。本文は緒言、方法（症例報告では省略可）、成績（手術手技の場合は手技）、考察、結論、文献の順に記載し、規定の形式にて添付する。
図、表もファイルにて添付する。必ず図には説明を、表には題名を入れる。症例報告の場合は成績の代わりに症例とし、本文中の結論は削除可能である。
8. 日本子宮鏡研究会において講演を依頼した演者には、その講演内容の執筆を依頼し、その論文を掲載する。なおこの場合、記述は投稿規定に沿ったものとし、原則として8,000字以内とする。
9. 論文の長さは文献、図、表なども含めて6,000字以内（刷り上り4頁）とする。
なお、図、表は1頁に6個を挿入した場合、1個が約300字に相当する。
図、表はそれぞれに番号を付け、縮小製版された場合にも明瞭であるように留意する。
10. 単位、記号は m, cm, mm, μ , $m\mu$, g, mg, μ g, l, ml, $^{\circ}$ C, pH, N, M, Ci, mCi, μ Ci などとする。数字は算用数字を用いる。
11. 文献は次の形式により末尾に一括記載し、本文中では引用部位の右肩に

文献番号^{1).2).}……を付ける。原則として、原著の場合は著者名を3人まで記載する。それ以上の場合は筆頭者のみとし、他は「他」を付して省略する。和文誌の雑誌名は医学中央雑誌の略誌名に、欧文誌の雑誌名は Index Medicus による。なお、文献は下記のように表記する。特に号数を必要とする場合は、巻数と頁数との間に入れて括弧で囲む。インターネット上からの引用の場合は、著者名、題名、年次などの表示されている情報を記載する。ウェブサイトの場合は、その URL とともにアクセスした日を明記する。

1. 雑誌の場合 著者名：題名，誌名，年次；巻数：頁数.
2. 単行本の場合 著者名：題名，書名，年次；頁数，発行所.
3. インターネットからの引用の場合 著者名：題名，年次；出典あるいはURL（最終アクセス日）

記載例

高島英世：今月の臨床 婦人科外来検診マニュアル 24. 子宮鏡, 臨床婦人科産科, 1994；48：450-453.

Dakhly DM, Abdel Moety GA, Saber W, et al.: Accuracy of Hysteroscopic Endomyometrial Biopsy in Diagnosis of Adenomyosis. J Minim Invasive Gynecol.2016；23: 364-371.

Baggish M, Guedj H, Valle R : Hysteroscopy ; Visual perspectives of uterine anatomy, physiology and pathology. 2007; 330, Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia .

Rikken JF, Kowalik CR, Emanuel MH : Septum resection for women of reproductive age with a septate uterus. Cochrane Database Syst Rev 2017; (1): CD008576

日本産科婦人科学会：医学的適応による未受精卵および卵巣組織の採取・凍結・保存に関する見解. http://www.jsog.or.jp/ethic/mijyuseiranshi_20140417.html（最終アクセス日 2016年2月1日）

12. その他、参考文献記載上の注意引用部分の巻数・ページ数表記は半角英数表記とする。
引用元が連番で3文献以上ある場合、引用部分につける参考文献番号は、次の表記に統一。例；1から5までを引用の際は「^{1).2).3).4).5).}」と表記せず「¹⁾⁻⁵⁾」と表記。
修正再投稿時には、査読者コメント毎に対応結果を表記すると共に、修正箇所はアンダーライン又は朱書き等で把握可能な対応を行い提出する。
文章・図・表は原則としてオリジナルのものを使用する（転載の場合は必ず掲載許可をとる）。
13. 本紙に掲載された論文の著作権は、日本子宮鏡研究会が有するものとする。
14. 論文の採否は、査読者の意見を参考にして編集会議で決定する。また原稿は、査読者の指摘事項に従って加筆、削除、修正などを求める場合がある。
15. 印刷の初校は著者が行う。ただし、組版面積に影響を与えるような極端な改変や組み

替えは認められない。

16. 日本子宮鏡研究会学術講演会において発表のあった内容の投稿論文については、1題につき手数料（郵送など）として5,000円を請求に基づき支払うものとする。カールストルツ賞（学会発表）受賞、および若手奨励賞による依頼原稿の場合、手数料は無料とする。
日本子宮鏡研究会学術講演会における発表がない投稿論文については、1題につき手数料として10,000円を請求に基づき支払うものとするが、依頼投稿の場合はこれを免除する。別刷の実費は著者負担とし、希望数を本研究会に伝える。別刷は10部5000円より、10部単位とする。印刷費用はページ単位とし、モノクロは1枚5000円、カラーは1枚15,000円とし、採択通知への返信にページ毎の希望をコメントとして記載する。
17. 利益相反
論文投稿に際し、すべての著者は利益相反状態の有無を論文末尾、謝辞または引用文献の前に記述し開示すること。なお、利益相反状態は論文に下記の如く記述する。
〔例1〕利益相反状態を有する場合 “○○○○は本論文に関連して△△株式会社より研究費を受けている。その他の著者は開示すべき利益相反はない。”
〔例2〕利益相反状態を有していない場合 “すべての著者は開示すべき利益相反はない。”
18. 電子投稿で記入するカバーレターの宛先は、編集部委員会委員長とする。カバーレターには、下記の情報を含めること。
 - 1) 論文の表題
 - 2) 発表論文は、第〇回日本子宮鏡研究会で発表したことか確認できる文言
 - 3) 本誌のみに投稿していることが確認できる文言
 - 4) 投稿する論文の主な知見と分野における重要性についての簡単な説明
19. 投稿にあたり、個人に関する情報の取り扱いにあたっては個人情報保護を遵守すること。特に症例報告においては、患者のプライバシー保護の面から個人が特定されないよう、氏名、生年月日はもとより、手術などの月日を明記せずに臨床経過がわかるよう記述して投稿するものとする。
20. 論文投稿時の連絡先に変更があった場合は必ず日本子宮鏡研究会事務局に連絡する。

2020年 4月26日
日本子宮鏡研究会

